

つくる！なおす！まもる！ 地域建設産業の取り組み



北海道 夕張シューパロダム湖横断橋建設工事

広島市北部土砂災害対応状況 日刊建設通信新聞社提供



地域の建設産業は、道路や橋・堤防、建物など、普段の生活を行う上で欠かせない公共施設等を作り、直すとともに、国民の命を守り、人々が安心して暮らすことのできる環境を整える活動を行っています。

“ひとびとの生活基盤を、「つくる！」”

建設産業は、「土木工事業」や「建築工事業」をはじめ、数多くの専門工事業で構成される産業体であり、わが国国内総生産及び就業者数の約10%を占める、非常に重要な産業です。いずれも、ひとびとの生活やビジネスに必要な基盤を「つくる」ことを、日常の業務としています。



砂防ダムの新造工事



ビル・公共施設等の建築工事



河道掘削工事

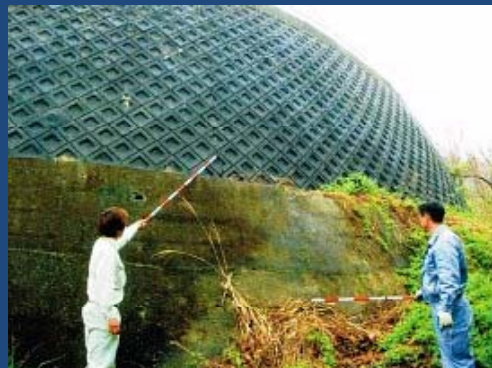


急傾斜地の地すべり防止工事

“地域の町医者、道路や堤防などを、「なおす！」”

道路や橋・堤防などの公共財が長期間にわたり使用できるよう「なおす」ことも、重要な仕事です。日常的なパトロールや、維持・修繕等により老朽化対策を講じるとともに、いつ発生するかわからない災害への対応力を高め、地域の振興と活性化を図る「町医者」としての役割も求められています。

● 斜面保護ブロックの亀裂調査



● 道路脇斜面の補修



● 堤防くずれの応急措置



● 建設業協会会員企業の女性職員による「環境すみずみパトロール」



● 河川堤防の修繕



● 道路の亀裂・陥没の計測



“地域の安全と安心を、「まもる！」”

さらに、地元で活動する地域の建設産業は、地震、津波、大雨、大雪、竜巻など、予期せぬ災害の発生時には、誰よりも早く現場に駆けつけ、被害を最小限に抑えるため、応急復旧に努めます。地域住民の安全・安心を「まもる」ことも、建設産業の重要な使命なのです。

2011.3.11 東日本大震災

● 東日本大震災においては、被災地区の建設業協会の会員企業の70%が、自ら被災するなかで、「人命の救助」、緊急車両を通行させるための「道路の応急復旧」、「がれき撤去」などの復旧支援活動を、発災後、即座に実施しました。



2014. 2

関東地方豪雪災害

- 各地の建設業協会会員企業は、夜通しの除雪作業に従事したほか、隣県の建設業協会同士による広域的な連携も行われました。



2014. 8

広島市北部土砂災害

- 土石流被害、がれきの撤去及び運搬、災害地域への進入路整備、土留め応急対応、ポンプ車・散水車の出動等の災害復旧支援活動を、昼夜問わずに実施しました。



地域の安全のために



“平時から、不測の事態に、「備える」”

天災はいつ・どこで、発生するかわかりません。全国47都道府県建設業協会では、災害時の緊急出動などに備え、各都道府県との間で「災害協定」等を締結しているほか、平時においても、緊急時における資材の備蓄、GPSを利用した災害時情報共有システムの配備、各種研修の実施、防災訓練の実施等により、不測の事態に「備えて」います。

●災害時情報共有システム

～GPS携帯・スマートフォンを利用し、災害時等の迅速な対応を図るべく、現場情報(動画や写真など)の共有システムを整備しています～



●防災訓練の様子



●研修会の様子



“地方創生の主役、地元へ「貢献する」”

建設産業は、政府を挙げて取り組む「地方創生」の担い手としても、強い期待が寄せられています。地域の未来のため、ひいては日本の未来のためには、建設産業の力が不可欠なのです。「社会に貢献し、地元とともに生きる」建設産業の役割は、無限に広がっています。

- 海岸や道路の清掃活動、花壇の整備



- 警察、自衛隊、消防団等とともに地域の水防演習へ参加



- アルミ缶のリサイクルによる植樹活動



- 会員企業による堤防の除草活動



“若者や女性の活躍が増えています！”

- 建設業界を志す土木・建築系の学生を対象に、現場見学・作業体験等を実施し、若者の育成を支援しています。



- 今春入社した九建(熊本市)の大塚紗亜也さん「将来は、女性の視点からアドバイスできる技術者になりたい！！」



日刊建設産業新聞社提供